

国際研修「紙の保存と修復」(⑤セ05-12-2/5)

目 的

日本の紙文化財を所蔵する海外の美術館・博物館に専門の保存修復家が所属していることは稀であり、海外の保存担当者からの保存修復についての問い合わせは多い。日本美術品の保存・修復・活用を行うには、材料や技法などの基礎的な理解と取扱い、修復の実技研修が必要であるが、海外でそのような機会を得ることは困難である。また近年では、日本美術品に限らず、和紙を使った修復技術が海外の文化財修復に応用されるようになってきた。そこで本研修では、紙文化財に関する保存修復の講義及び演習を通して、参加者に紙文化財に関わる基礎知識を伝えるための研修を行う。

概 要

本年は国内及びメキシコにおいて研修を行った。

1. 日本国内研修

- ・国際研修「紙の保存と修復」(International Course on Conservation of Japanese Paper)
- ・場所：東京文化財研究所、その他・期間：2012(平成24)年8月27日～9月14日
- ・参加者国名：エジプト、オーストリア、イタリア、アメリカ、コロンビア、デンマーク、タイ、ロシア、ポーランド、オーストラリアから10名
- ・内容：日本の伝統的な紙文化財修復に関係する、紙、接着剤、道具、技術についての講義、見学とともに、装潢技術を用いた卷子修理、製本などの実習を行った。

[講義] 早川典子「日本画修復に使われる接着剤について」、加藤雅人「紙の基礎」、岡泰央「装潢概念」、江村知子「日本における紙本絵画の歴史と伝統」

[実習等] 卷子修復、冊子綴じ、掛軸・屏風取り扱い、所内見学、討論

[スタディーツアー] 9月3～7日実施。岐阜県美濃市(長谷川和紙工房見学、美濃和紙の里会館観覧及び和紙の手漉き、美濃史料館観覧、美濃市美濃町伝統的建造物群保存地区見学)、福岡県太宰府市(九州国立博物館バックヤード見学)、京都市(修復材料・道具店、岡墨光堂(修復工房)見学)

2. メキシコ研修

- ・ICCROM-LATAMプログラムにおけるInternational Course on Paper Conservation in Latin America
- ・場所：メキシコ国立人類学歴史機構・期間：2012(平成24)年10月17日～10月30日
- ・参加者：ベネスエラ、キューバ、チリ、エクアドル、ブラジル、ペルー、コロンビア、アルゼンチン、メキシコから12名
- ・内容：研修の前半は、装潢修理技術に用いる材料、道具、技術をテーマに、日本人講師が講義、実習を行った。研修後半では、装潢修理技術の研修後実用経験のあるメキシコ、スペイン、アルゼンチンの講師らが、日本の材料、道具、技術が欧米の文化財修復に実際にどのように活用されているかを紹介し、実習を行った。

[講義、実演] 加藤雅人「日本における紙文化財修復」、池田和彦「装潢に使用される道具」、楠京子「装潢で使用する糊」、池田和彦「修復のための診断」、池田和彦「クリーニング」、加藤雅人「紙の基礎」、加藤雅人「和紙の抄造」、池田和彦「補てん」、池田和彦「裏打ち」、加藤雅人「和紙の性質」、加藤雅人・池田和彦・楠京子「仮張り」

[実習] 楠京子・池田和彦・加藤雅人「糊の調製」、池田和彦・楠京子「補てん」、池田和彦・楠京子「裏打ち」

研究組織

○川野邊渉、加藤雅人、江村知子、楠京子、山田祐子、川端冴子(以上、文化遺産国際協力センター)、早川典子(保存修復科学センター)